



ものづくり大学発

施工技術を稼働させるための基礎技術が十分に足る性能を有しておらず、現実的なコスト内での稼働が難しかったことが一因として挙げられます。ほかにも、重機や電動工具の活用、部材の部品化などの合理的な手法が一般化したものの、本質的には人手に頼る部分が多く、必ずしも大幅に合理化できる手法とは言えませんでした。

これに対して、コンピュータの急速な性能向上のもと、IoT、ICT、AI（人工知能）、ロボット、3Dプリンターなどに紐（ひも）付

以上の状況を鑑みると、悲観的に見れば遠くない将来に「ものづくり」が減退する可能性を考えざるを得ない状況にあると言えます。一方で、伝統的な建築物に代表されるように、建設業はわが国の文化形成の一端を担ってきた側面もあり、これに人が介在しないものなるのは少々寂しい思いもあります。「人によるものづくり」を標榜する本学に所属する立場としても、今後の動向に積極的に向き合っていきたいと思います。